

令和3年度【第1回】島根県県民いきいき活動促進委員会 【議事要旨】

日時:令和3年7月16日(金)

13:00~15:00

場所:松江合同庁舎601会議室

出席状況

○委員(出席13名)

金野委員長、猿渡副委員長、小倉副委員長、石橋委員、香取委員、河井委員、中野委員、原田委員、福間委員、松村委員、森山委員、若菜委員、藤田委員(オンライン)

○事務局(6名)

竹内部長、柳楽課長、曾田室長、松近企画幹、岩成主事、土江主事

1. 開会

2. あいさつ

竹内環境生活部長

3. 委員改選等について

(改選後)金野委員長、猿渡副委員長、小倉副委員長

(新任委員)松村委員、福間委員、藤田委員、河井委員

4. 報告事項

以下の内容について、書面による報告

(1)島根県県民いきいき活動基本方針について(新規成果指標、活動指標について)

(2)NPO活動推進室の事業概要について

5. いきいき活動実践者等からの現状説明及び意見交換

【いきいき活動実践者、主な意見】

○コロナ禍の中で6月の総会及び7月の法定協議会はハイブリッドでの開催を行うこととしている。また、職員の勤務について、市内、隠岐地域でリモートワークを実施し、多様な働き方を実施している。

○自分が考える多様な主体とは、企業等も含めたもの全てと考えている。県だけが相手ではない。NPO同士の協働実態もある。県を相手ととらえることに違和感がある。活動指標にNPO同士の協働実態の数字も反映できれば協働の深化につなげられるのではないかと考えている。

○法人の総会や理事会の開催関係でコロナの影響が見受けられ、見なし決議関係での相談が増えてきている。また、コロナではないが中山間地域から参加している者の感想として、NPO活動も少なく高齢化率も高い状況であり、何でも行政任せにしてしまうことがある。行政においてもNPOに対する認知度が高いとは言えないところが難しいと考えている。行政任せにしては何も進まない。まずは自分が意識を変えしっかりといかなくてはいけないと考えている。

○労働者協同組合法の概要では、「地域における多様な需要に応じた事業が行われる」「持続可能で

活力ある地域社会の実現に資することを目的とされており、地域社会に貢献する法人として位置づけられている。現在まで出資・意見反映・労働が一体となった組織でこのような目的を実施するための法人形態がなかったため新たな法人形態を法制化されたもの。今後、NPO法人を解散せず組織変更という形で労働者協同組合法人になる事案が出てくると思われる。今後は労働者協同組合という名前を超えて広がりのある NPO 法人と並んで地域社会貢献、公益の増進に資するような法人制度に発展していく可能性がある。

○個人的に NPO 監査・幹事に興味があり様々な研修を受講している。県外主催のセミナーも受けているが、これまでは受講できなかった研修にもオンライン利用により受講することができるようになった。研修は意見交換の場も用意されており、他県の NPO 法人の幹事と話すこともできるようになった。これは良い面でのコロナの影響と考えている。

○法人から解散等についての相談が増えていると聞いている。現在、関係機関と相談しながら NPO 終活勉強会の開催を考えている。解散に向けての道筋をつくる手伝い、NPO 活動を続けていくために何が必要かを考えていくきっかけになればと考えている。

○6月にコロナの影響についてのヒアリングを実施した。イベントを企画する法人からはコロナ禍により活動できず情報発信する場もなくなってきているとの話があった。活動するにあたってはコロナ禍でイベントを企画することや情報発信をすることについて誹謗中傷されることもあったと聞いている。逆にコロナ禍でイベントが少なくなったが、会員が減ることもなく絆がより深まったという団体もあった。要望では団体の活動状況やイベント状況を発信できる場が欲しいとの声があった。

○コロナ禍で体験を行う事業については減少しているが、中山間離島の問題点でもある介護、買い物弱者救済関係については変わらず支援を担ってもらっている。同じ分野でのネットワークはあるが、これからの地域コミュニティーを支えるためには様々な主体との協働が必要と考えている。

○ファンドレイジング事業に力を入れていきたいと考えている。今後、ファンドレイジングの研修による寄附集めについて、まずはモデル的になるかもしれないが支援をしていきたいと考えている。

○災害、防災での NPO の役割について、ここ数年自分の中で課題として持っている。また、自分の団体がどういう役割を果たせるかを含めて考える必要があると、この度の災害でも強く感じたところ。日頃からのつながりがいざというときの助け合いにつながると思っているのでそういうネットワークがあると良いと考えている。

○学生と地域に出ている協働しながら一緒にやっていくことをしていたが、相手の方の気持ちを考えながら、少しずつ取り組みを拡げることが積み重ねて、今年のご理解をいただいた上で少しずつではあるが活動を拡げている。活動を行う中で対面でのふれあいや交流することの大切さということを改めて感じている。

6. その他

・労働者協同組合法について

7. 閉会